



ユネスコエコパーク通信

まちづくり協議会の活動を報告します

地域住民が主体となったユネスコエコパークを生かしたまちづくりの計画・提案を行うことを目的に平成26年度に設立された「綾ユネスコエコパークまちづくり協議会」。平成27年度は、会員29人が「自然・学習」「商品開発」「ビジターセンター」の3つのグループに分かれて、ワーキング会議や視察、研修会などを行いました。

自然・学習グループでは、「町民の自然に対する理解や自然体験を豊かにする」「森林環境の美化を推進する」の2点について議論を深めました。まずは会員自身の自然に対する理解や体験を豊かにするため、9月に川中神社で1泊2日の自然体験学習を行ったほか、12月に大吊橋付近の照葉樹林内の清掃活動(24時間テレビチャリティー委員会との共催)をしました。

商品開発グループは、農家民泊について話し合いました。小林市などで農家民泊を推進している「北きりしま田舎物語推進協議会」の富満哲夫会長と小倉憲子事務局長を講師に迎え、1月に研修会を開催。綾町で農家民泊を実現するための課題などについて活発な意見を交わしました。

ビジターセンターグループは、綾町におけるビジターセンターの設立準備に当たって必要な取り組みについて話し合いを進め

ました。また、ビジターセンターの運営状況や課題などを調査しようと、3月にえびのエコミュージアムセンターと南阿蘇ビジターセンターを視察しました。各グループとも、活動を進めていくに当たり必要な人材や資金などをどのように確保していくのかという点が課題となりました。28年度はこれらの課題を解決するための方法を考えながら、ワーキング会議を進めていく予定です。



12月にボランティアと大吊橋付近の照葉樹林の清掃活動を実施



えびのエコミュージアムセンター視察



農家民泊に関する研修会

コラム

タカチホヘビ

森林にすむヘビ。日本人初の採集者である高千穂氏にちなんだ名前です。太さは大人の小指程度、長さは約30〜60cmと小型。夜行性で昼間は落ち葉や石、倒木などの下に潜り込んでいるため人目に触れることが少なく幻のヘビと呼ばれることもあります。

表面の鱗には虹色の光沢があり、非常に美しい体をしています。昆虫やミミズをエサとしていますが無毒でおとなしく、かみ付くことはほとんどありません。石の下などで運よく見つけることができれば、じっくり観察してみるのもよいかもしれませんね。

